

# 卒園にあたって

平成19年12月、まゆは一卵性双生児の第一子として1,400gで生まれました。予定より2か月ほど早い早産でした。生まれるとすぐ区別のために、まゆのおでこにはマジックで黒丸ひとつ、もう一人の子には黒丸ふたつが書かれました。名前が決まるまでの2週間は看護師さんよりいちこちゃん・にこちゃんと呼ばれており、名前決めに疲れた私たち夫婦はこのままいちこ、にこでいこうかと真剣に話し合ったほどでした。

まゆに後遺症が残ることをドクターより告げられたのもこの頃でした。私はというと900gの低体重で生まれていたもう一人の子の成長ばかりが心配でしたので、「どうして大きく生まれたまゆが？まさか、まさか」という気持ちが大きかったです。

退院して家に帰ってからの双子育児は想像以上に大変でした。赤ちゃんが生まれる前までは「毎日サンドイッチ作って～公園行って～お散歩して～♪」なんて呑気に考えていましたから、泣き叫ぶ赤ん坊にミルクをやって、交互に寝かせて、うんちとおしっこにまみれる生活にとにかく疲労困憊……。その頃はゆっくり寝る時間が欲しい欲しいと日がな思っていたような。

加えてまゆの障がいを考えると涙が止まらず途方に暮れていました。主人に相談するも仕方ないやん、とあっさり障がいを受け入れようとするので、それはそれでどうしてそんなに簡単に受け入れるのかと当たり散らしました。またそんな泣いてばかりの私を見ては涙する祖母にうんざりもしました。しかし、今思えば主人にしろ祖母にしろ私と同じくらい子どもの障がいはつらくて不安だったのだと今ならそう思います。

一歳後半から通いだしたつばみ園、はじめの2年はとにかく毎朝登園することに必死でした。もう一人を近所の保育所へ預けてその足でまゆとつばみ園へ。ところが保育時間中も泣いてばかりのまゆに「今日は何をしにきたんだろう。泣いて終わったし。」と思う日もしばしば。それでも通い続けたのは他のお母さん方が一生懸命我が子を可愛がって療育する姿を見たからです。同じように先生方も愛情いっぱい子どもに接してくれました。つばみ園に通わなければ私は確実に療育迷子になっていたことと思います。例えば、本屋さんで売っている育児書では首すわり、寝返り、お座りとたった一行で済む発達の過程ですが、まゆのような子どもにはその寝返りからお座りの間にどれだけか小さな階段がいっぱいあること、そしてその一段一段を親と共に気づいて喜んでくれたのがつばみ園でした。親子登園した5年間はいかに私が世の中のことをなんにも知らなかったのだと気づかせてくれた月日でもありました。

現在、6歳を迎えたまゆは大人顔負けの食いしん坊であり、先生からおはようと声をかけられるとオイッスと右手を挙げて返答する（貫禄ある？）年長さんの女の子です。この度、卒園にあたってつばみ園で出会えたすべての方々に感謝の気持ちを述べたいと思います。本当にありがとうございました。